



尼崎市立小園中学校 第2学年

社会科通信

なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.8-1 / 4

力の差が出てきたテスト結果

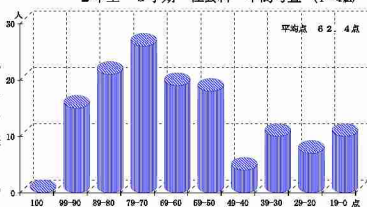
ふだんの授業の中で集中しよう
それが 学力アップの基本だ!!

遅くなりましたが、ようやく、3学期の中間考査の結果をまとめました。

平均点は62.4点で、全体的にはまずまずの成績だといえるでしょう。

今回の中間考査の結果から推測できるのは、学習に対して真剣に取り組んでいる人と、そうでない人の差が明確になり始めていることではないでしょうか。得点を度数分布(グラフA)で見ると、それが明確に見えるような気がします。

2年生 3学期 社会科 中間考査 (1~4組)



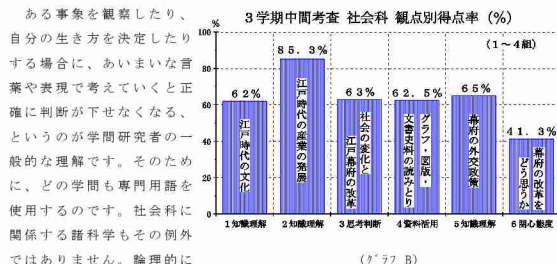
(グラフA)

度数分布は、ちょうど2こぶラケダのように曲線を描きます。合計得点で見れば、大半の人は50点以上の位置にいます(全受験者は130名)。しかし、残念なことに、それ以下の人たちが少なからずいます。これまでの定期考査では、度数分布上では、これほど明確な傾向は出ていませんでした。2学期の後半くらいから、普段の授業中で集中力が欠けている人が、散見されるようになり、テスト結果はその傾向を正直に示したとも言えるでしょう。2年生としての授業は、あとわずかにありますが、特に、今回のテストで成績が思わしくなかった人は、再度初心に戻ってがんばり



直して欲しいと思います。

一方、観点別に得点率を見た場合「社会事象に関する知識・理解」、「資料活用技能」、「社会的思考・判断」の観点では、全体的には、ほぼ合格点といえる得点率を示すようになりました。ところが、専門用語を使って自分の意見を表現する学力は、まだまだ低いと言わざるをえないでしょう(グラフB)。



思考することはもちろん、さらに専門用語を使用して、自分の思考を練り上げていくことが大切なのです。このようなことは、かなり高度な内容ですが、学習することの意味がこのことによって明確になります。また、そのような練習を反復することによって、一度理解し記憶した内容が、自分の頭の中で反復して利用されるために、記憶や理解がより強度を高めていくと考えられます。学習した内容を定着させるためにも、専門用語を利用して思考することを、普段から試みてほしいと思います。

ここで少しだけ、領域別に問題をふりかえっておきます。「江戸時代の文化」の問題は、数学の因数分解の「共通項でくく」方法で解かなければできませんでした。社会科の中に出てくる社会法則の多くは、社会事象の中から共通因子を発見して研究されてきたものです。その初歩的な研究方法および思考方法の練習をしてみたわけです。単純に「暗記」していただければ解くのが困難だったと思います。次に、「社会の変化と江戸幕府の改革」では、江戸幕府の諸改革と、社会の変化との因果関係を考えられるかどうかを試しました。歴史事象の1つ1つを単純に「暗記」するだけでは、歴史を学ぶ意味は半減します。また、おもしろさもないでしょう。「流れ」を理解し、考えることに力を注いでください。



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.8 - 2 / 4

友だちの作品から学ぼう

テレビドラマなどでは、將軍や位の高い武士たちが主人公になっていて、下級武士や浪人が悪者になっている設定が多く見られます。しかし、そんな江戸時代の理解の仕方だけでよいのでしょうか。君たちは普段、テレビドラマの中の「江戸時代」をどのように見ているのでしょうか。はたして、江戸時代の政治と今日の政治は、全く別物として理解してよいのでしょうか。江戸時代の政治を学ぶことで、君たちの政治観がどのように成長するのか、いろんな疑問がでてきます。

そこで、問題〔6〕で「幕政改革は、百姓（庶民・農民）から見て改革といえるか。自分の考えをまとめなさい。」として、君たちが、幕府改革をどのように理解するかを聞きました。

これまでと同様に、友だちの「作品」には修正を加えていません。中には誤った理解が含まれているものもあります。しかし、文章全体を見たときには、そのわずかな誤りを無視できるほどすぐれた内容（表現力）をもつものだとします。今後の学習の参考に、友だちの意見をよく読んでください。なお、今回は、10点満点中で7点以上の人の「作品」から、その一部を紹介しています。

採点基準

- ◎1 幕府の改革の事実を具体的に示していること（例 倭約令）。
- ◎2 支配階級にとっての改革であったことの指摘がある。
- ◎3 農業生産が高まっているにもかかわらず、一揆が増加したり、ききんが多発している事実を指摘していること。
- ◎4 百姓の生活のために保護政策を出したという反証をしている。（ただし、松平定信の「開い米」は「生活を向上」させる「改革」ではなかったことに注意する必要がある。）
- ◎5 論理的に成立していること。
- ◎6 自分の態度を表明するような、自分の考えが示されていること。

以上の各論点について、各2点（ただし、2と4は両立しない）。なお、結論は、採点対象にしない。

1組 E. I. 幕府改革は、庶民から見ても改革とはいえない。なぜなら、改革といっても、幕府などだけが有利になっているから、そのぶん また、農民が苦しくなる一方だと思う。現に、今までの社会の授業で、改革とゆうのは何度もでてくるけど、農民が楽になったことは、一度もない（たぶん思う）。だから、わたしは思うには、幕府はいんちきで自己中心的な、わがままな奴だと思う。けど、もしかしらば、幕府は幕府で、いっしょうけんめいやってるかもしれない、もしかしらばけど…

1組 Y. T. 改革と言う言葉は、すごくいい事をしてるように思えた。テレビでも商人達は華やかに江戸での生活をしているようだ。けど苦しんでいたのは農民・庶民だと思う。改革の度 年貢はふえてゆき、ききんがおそってる。不作でも米は決められた量を持っていかれるのでは？ こんなのでは改革というのはまったく百姓らにしてはひとつもいい事ではなかったと思う。改革というのは聞こえはいいけれど、内容は、ただ百姓らを苦しめ、商人、將軍らが富をえようとすることだと思う。改革が行われる度、百姓らは苦しい思いをして働いていたんだろうと思う。そういう意味で改革とは全くいい事ではないと思う。

1組 T. T. 私は「改革」というのは、人々にとってよい方に改めることだと思う。でも、身分の上の人たちにとっては、よいことなのかもしれないけど、百姓にとっては、あまり、今までのかわりになくて、悪い方でもいいと思う。幕府の財政が苦しくなったときも、年貢の事を上げたけれど、それは、幕府にとっては助かることでも、百姓たちにとっては大変なことだと思う。でも、悪いことばかりじゃなく、年貢の改革の時の「目安箱」は、百姓たちにとって、よいことだったと思う。でも、改革が行っても、苦しいことの方が多かったと思うので、幕政改革は、百姓から見ても「改革」とはいえないと思う。

1組 J. M. 幕政改革は、百姓（庶民・農民）から見ても「改革」とはいえない。幕政改革は、くずれてきた幕府の財政や政治を立て直すために行われたもので、農民のために行われたものではない。農民にも命が出されたりしたけど、その命は、農民から年貢を少しでも多く取り上げるためのもので、農民の生活は苦しく、少しも楽にはならなかった。幕政改革が行われて、農民の生活も少しはかわったかもしれないが、よくなったのではないので、「改革」とはいえないと思う。

1組 R. Y. 幕政改革は、百姓からみて改革とは言えないと思う。わけは、改革を行うたびに、百姓のくらしは苦しくなるし、年貢とかだつて多くなくていいからです。改革をするのは、武士や大名とか身分の高い人が自分たちのくらしを少しでもよくして、お金を多くたくわえたいからだと思う。だから地位の高い人が出す、きまりや「〜令」は農民たちに対してすごく ふりなことが多くて思うからこれは百姓からみて改革とは言えないと思う。

2組 M. I. 農民からしてみれば改革なんてぜんぜんしてほしくないと思う。幕府はかつてすごいと思う。改革をするたびに年貢率がどんどん上がっていった、いまでも苦しいのもっとも苦しくなってしまう。だから、百姓一揆や打ちこわしなどをしないといけなくなると思った。



尼崎市立小園中学校 第2学年

社会科通信

なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.8 - 3 / 4

2組 J. K. 百姓から見て改革は、ただ年貢率が上がっただけだと思ふ。
幕府や藩から見れば、百姓をしいはして、財政を立てなおすために必要だったかもしれないけど、百姓たちは、苦しい毎日をおくっていたと思ふ。このことから、幕府は、すごく悪いことをしていたんだと思ふ。

2組 T. U. 幕政改革は幕府のことしかかんがえないで農民のことはぜんぜんみまきもしないなんてひどすぎると思ふ。もしこの時代に自分が生まれていたら百姓一揆をおこしまくって幕府をつぶして農民を自由にさせてやりたいと思ふ。でももうすこし年貢率をひくくしたりしてくれたら もっと農民はらくになつたと思ふ。また、御用金などと重い年貢をとつたうえにそんな金まで必用だったのか。☆それが改革か 改革っていうもんは百姓や庶民をらくにすることじゃないのか、大塩平八郎さんがしようとしていたのがほんとの改革なのじゃないのだからってぼくは思ふ。

2組 T. M. 幕政改革は百姓達のことを考えず、幕府のことだけを、考えていたと思ふ。目安箱などというものを設けられましたが、結局は、農民の生活が、全部は、つたわってなかったのです。農民にしてみても、ただ、苦しめられていただけだと思ふ。そんなことも知らない幕府は、百姓一揆をおこした人を処刑にしたりして簡単に人を殺していたと思ふ。それも、農民の年貢で自分が生きていたことを知らなかったのでしょうか。農民のことを、少しでも考えて、改革を行ってれば、きっといい結果になったと思ふ。こんな改革は、日本にとってあつてはならないものだったと思ふ。

2組 M. M. 改革とはいえないと思ふ。幕府は政治改革とかいって ちょうしのいい事をいっているけど、自分たちのつごうにしかすぎないと思ふ。農民等にとっての改革ってゆうのは、少しでも多くの白いごはんをたべて、少しでも年貢を下げてもらうっていうのが農民たちにとっての本当の改革だと思ふ。起用法の改革とかをいっばいしているけど、それは、幕府だけの改革だと思ふ。また農民にとってはただの年貢の引き上げ『だけ』にしかすぎない。改革というのはその国全体をよくしようというもののなのに、全くよくならない。逆に一揆などがふえる一方。よけいに悪くなっている。それに改革らしい改革など全くないように思える。つごうにあわせた政治改革などなくともいいと思ふ。こんな幕府なんていなくても百姓たちは自分でくらせると思ふ。

3組 K. O. 幕府改革は中心から見てみると幕府経済の立て直し、そうして農民などの支配などの幕府から見れば成功すれば ちよつとおとくつていような改革を意味している。ちよつと中心からずれて町人などを見てみると発展できる商人は発展していつている。だが、農民はどうだ。その逆に落ちるやつはとことんおとけい、そうしてまた、上れるやつは上がつていく、ぼくはその改革はただの幕府おとく改革にしか見えない。改革というのはみんなが豊かになるようないや、普通の生活ができるような改革をして欲しいか、してみたいと思ひました。

3組 S. Y. 幕府はききんが続いているのに、百姓らを助けるのではなく、年貢をおさめさせるために、改革というものをした。これは百姓から見れば、ただでさえ苦しい生活をしているのに、改革のため、きびしい儉約をしると言われたため、がまんにたえず百姓一揆などをおこした。これは百姓がかえって苦しくなった証だと思ふ。なぜなら、改革の時に、一番多く一揆などが多発しているからである。一揆だけではなく、打ちこわしというものもある。これらは改革のたびに商人らが米や商品を買ひしめ、高い値で売ろうとするからである。このようないことがらから、幕政改革は、百姓から見て改革とはいえない。

3組 A. M. 私の考えでは、あまり改革とはいえないと思ふ。幕府は改革で年貢を上げたりして、百姓たちは楽になつたと思ふ。このテストの[4]の資料のAをみても、改革などがあつた時などにものすごく増えている。また天保のききんのところへんはふつうの一揆や打ちこわしにくらべて何倍もふえているので、このころ乱をおこした大塩平八郎やたくさんの百姓一揆や打ちこわしをした百姓たちの気持ちが少しわかつたような気がした。百姓一揆や打ちこわしがおこつたのはきびしい年貢を行つた幕府の責任が大きいのに、なにもないでいるのはちよつとだめだと思ふ。

4組 T. U. ぼくは、改革で成こうしたのは、3つの中1つもないと思ふ。理由は改革とは人々のくらしを楽にしてあげるものを言うのに、げんに改革をしたあとにはぜったいに打ちこわしや、百姓一揆などがおこつて農民がぜんぜんよくないでいた。改革しなかつたといつていいよみだ。どうせ年貢率を上げるだけだ、でも吉宗の改革はよかつたと思ふけど、それでも米経済にたよりすぎだと思ふ改革はすべて失敗に終わったとぼくは思ふ。ぜったいに改革と言えないと思ふ。けつきよく改革をしても、幕府も農民もぜんぜんよくなつた。

4組 N. U. 改革では、享保の改革などすばらしい改革もあつたが、それは幕府にとってすばらしい政治であり、農民にとっては、江戸時代の改革は全て自分たちを苦しめる悪政でしかなくつたと思ふ。享保の改革の中でも目安箱をつくり農民の不満をやわらげようとしたのはいいが、それはしよせんかざりだけのものであつて、農民全員が年貢を軽くしてくれと言つても、幕府が本当に年貢を軽くしてしまつたら、幕府自身がつぶれてしまふだろう。よつて、農民の年貢は軽くならない。しかも年貢率は改革ごとに上がつているのである。だから幕政改革は百姓にとって「改革」とは言えない。



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.8 - 4 / 4

4組 T. T. 確かに改革と言われれば、そう何か変わった様にも感じられる。しかし年貢を払うことだけを義務づけられている農民にとっての変化とは、年貢を少なくして欲しいというような事にしかつながらないだろう。なにそれで下がる所か、一丁前「～改革のため…」と、いちいちそんな名前でも登場しつつ農民への変化は「年貢率up」、の一本通し。これでは改革でもなんでもないじゃありませんか。幕府の方も存続が心配だというのは、ぜいたくなのですがわかります。が、人が人を支配するには必ず限界があり、それが世の常でしょう。本当の意味での改革を起こせるのは、皇室でも、幕府でもなく、一人、一人の庶民、農民の手で行われるものなのです。

4組 S. Y. 幕府からみれば改革かもしれないけど、百姓からみれば年貢の引き上げはあるし條約令は出るし、良くならずには、悪くなっている。「改革」とは、改革を行った人達だけが良くなって農民などはますます、きつい生活が始まってしまう。ただ1つ、農民の事を少しでも考えた吉宗の目安箱だが、あれが一体どのくらいの農民の不満をやわらげただらう。だから、幕府からみれば改革でも百姓達からみれば苦しくなっていくから改革とはいえないんじゃないかなあ。

4組 Y. T. 幕政改革は単に幕府の財政の立て直しを試みただけで百姓達にはなんの利点もなかったと思う。それぞれの改革の度に百姓の年貢率は上がり、はじめ四六民が天保の改革の頃には八二二民にまでなっていたと本で読んだ。そこまですれば百姓の不満もすくなくなるのもわかる。幕府は自分自身のことしか考えよくは考えてなかったと思う。條約令など出しても百姓でぜいたくしている人なんていないわけだし意味はないと思う。幕政改革は幕府がぜいたくにしかかったからで百姓達にとって一つも改革にはなっていないと思う。慶安の御触書を廃止するなどもって改革の方法はなかったんかなあ

4組 M. T. 幕府にとっては、いいことづくしの改革であったかもしれないけど、農民たちにとっては、ありがた迷惑だったと思います。新田開発や農民改良までは両方にとっていいことだと思うけど、年貢率引き上げをしたら結局ふりだしに帰って農民のくらはなんにも変わりません。また、ここできんがおく百姓一揆がおこりそしてまたここで改革をする。結局は同じことをくり返すことになりま。幕府にとっても農民たちにとっても納得のいく政治改革が必要だったと思います。

4組 Y. T. 「改革」とはいえないと思う。いくら改革したって、農民はどうせ年貢をおさめなければならぬし、年貢率をあげたりしているから、改革なんかしない方がいいと思う。もとはと言えば、綱吉の浪費生活が悪いんだから、幕府が自分で責任をとってほしい。農民に迷惑をかけずに、幕府も自分達で田を耕した方がいいと思う。自分達だけ楽しそうなんて、考えが甘すぎる。そんな事を考えているから改革が失敗するんだと思う。もっとも農民の気持ちも考えてあげてほしい。(考える人なんていないと思うけど) 農民からとる年貢率を、あげなければならなかったのはわかっているけど、もっとよく考えて、(例えば幕府も倅約するとか) 改革は行われなければならない。そうじゃないと、こんなのは全然改革じゃないと思う。もっといい改革をしてほしいかった。

ここに紹介した人たちの意見は、江戸幕府の改革は、百姓にとって迷惑なものであった、ということと共通しています。しかし、それぞれの根拠にしたところは微妙に違います。それが、文を書いた人の個性による違いかもしれません。あるいは、学習して強く印象に残ったところが、学習する人によって異なったからかも知れません。いずれにしても、学習した結果が、その人の考え方の基礎を形成して、やがてその人の個性を形作っていくとされます。

より豊かな個性を形成するために、確かな学力をつかみとってほしいと、すべての人に期待したいと思います。

今回の考査では、違う立場の意見がほとんどみられませんでした。幕府の改革は、あくまでも幕府の存続のために実施された性格のものでしたら、庶民にとって有利な改革にはならなかったという限界がありました。その点について、出題のまずきを先生(倉橋)は反省しています。もっと議論の分かれる場面で出題をしなければ …。

ところで、採点している気がついたのは、多くの人が「改革」という言葉に、「期待」と言うか、「理想」のようなものを求めているような雰囲気があるということです。もしかすると、テレビドラマの主人公の「暴れん坊將軍」などのイメージが強烈で、享保の改革をした吉宗が「正義の味方」という固定観念があるのかも知れません。そのためか、どうしても論理に矛盾が生じやすくなっていました。特に吉宗の享保の改革を指摘した人の多くは、享保の改革が「年貢の強化」をしたことを無視した議論を展開して、百姓のためになったと結論づけています。

しかし、それは、幕府にとっての「理想」と、百姓にとっての「理想」とが、頭の中で一緒になってしまっていると言わなければならないでしょう。年貢を取る側と、取られる側の両者を混同するところから生じている論理矛盾です。年貢を取る側と、取られる側は、原理的には、身分階級的にも対立しています。その点を明確に意識しておけば、そのような混乱はなかったのではないのでしょうか。ほとんどの人の今後の課題だと言えるでしょう。